

平成21年度 文化アセスメント 実施結果報告書

2010（平成22）年8月
川崎市文化芸術振興会議

平成22年8月19日

川 崎 市 長
阿 部 孝 夫 様

川崎市文化芸術振興会議
会 長 澤 井 安 勇

平成21年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議は、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成21年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取り組み内容について実地に確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民とのかかわりおよび効率・効果等の視点から、当該事業が有効かつ適切に実施されているか総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものですが、今回、平成21年度に実施された2つの事業を対象にして、第1回の文化アセスメントを実施し、その結果をここに報告するものです。

実際の作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々のプロジェクトを視察し、必要な範囲で事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら各委員が個別に評価し、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。

何分にも限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

なお、評価作業の中で、振興計画の事業構成について、事業の目的からみて個別の取組プロジェクトの組み合わせ等について改善すべき点があるのではないか、という参考意見があったことを申し添えます。

平成21年度文化アセスメント実施結果報告

1 対象事業及びその選定理由

(1)対象事業

A 音楽文化振興事業

A-1 国際音楽文化交流

A-2 東京交響楽団市内巡回公演

A-3 坂本九の顕彰

B 市民文化活動支援事業

B-1 かわさき市美術展

B-2 かわさき市民第九コンサート

B-3 市民コンサート

(2)対象事業の選定理由

文化芸術振興計画の事業計画「1文化振興」に該当する事業であり、川崎市新総合計画（「川崎再生フロンティアプラン」）の第2期実行計画で重点事業として位置づけられている重要な事業

2 評価結果

A 音楽文化振興事業

(1)事業の目的・概要

担当課	市民・こども局市民文化室	
振興計画上の位置づけ	1 文化振興	視点: ① ③ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
	① 音楽を中心とした文化芸術活動と市民の文化創造を通じて活力ある地域社会を実現し、市民が優れた音楽を享受できる機会や良質な音楽を提供する。	
事業概要	姉妹・友好都市とのコンサートなどの音楽交流やフランチャイズ(本拠地)オーケストラの市内巡回公演による音楽の提供を行う。	
目的	市内の身近な場所での良質な音楽の提供と交流による音楽のまちづくりを推進する。	

取 組

番号	名 称	概 要 ・ 目的	
A-1	国際音楽文化交流	概要	姉妹都市であるアメリカ合衆国・ボルチモア市から「ジャズ・アンサンブルメンバー」を招聘し、川崎市・ボルチモア市交流30周年記念コンサート実行委員会を組織し、交流コンサートを開催した。 1月17日(日)14時 洗足学園音楽大学(入場者約180名) 1月19日(火)18時30分 国際交流センター(入場者約150名) 1月23日(土)14時 昭和音楽大学(入場者約250名)
		目的	音楽を通じて友好都市等との国際交流の促進を図る。
A-2	東京交響楽団 市内巡回公演	概要	市のフランチャイズ(本拠地)オーケストラである東京交響楽団のアウトリーチ(出張公演)として、施設等に赴き、室内楽のアンサンブル演奏を実施した。 10月2日(金)14時 川崎授産学園(入場者約90名) 10月5日(月)14時 高齢者福祉施設すえなが(入場者約80名) 11月18日(水)19時 多摩市民館ホール(入場者約450名) 3月4日(木)10時40分 リハビリテーション福祉センター体育館(入場者約130名)
		目的	日ごろコンサートホールに足を運ぶことや音楽に接する機会の少ない市民に良質の室内音楽を楽しむ機会をつくり、市民の音楽への意識の向上を図る。
A-3	坂本九の顕彰	概要	川崎出身の世界的歌手である坂本九氏のプライベート写真による写真展を実施した。 12月1日(火)～10日(木) 麻生区役所ロビー 12月11日(金)～15日(火) 多摩区役所アトリウム
		目的	坂本九氏の功績を称えることで、同氏の素晴らしい活躍を市民に再認識してもらうとともに、生まれ故郷川崎のイメージアップ向上を図る。

(2) 評価

取組への評価

A-1 国際音楽文化交流

(1) 事業の目的

アメリカ合衆国・ボルチモア市からジャズ・アンサンブルメンバーを招聘し、コンサートや音楽による市民交流を実施し姉妹都市間の文化交流という目的は達成している。また、音楽のまちづくりの推進を図る企画の一環としても妥当であると考えられる。

(2) 文化芸術性

市内にある2つの音楽大学との共演や協力など地域の音楽資源を活用しており、川崎市としての独自性が見られる。また、交流の場ではあるが、市民コーラスやバンドなどが参加し演奏を行う発表の場として育成支援にも寄与している。

(3) 市民とのかかわり

市民を含めた実行委員会による事業の運営や市民団体のコンサートへの参加など市民の参加が図られている。音楽大学の会場では学生・卒業生が出演・鑑賞しており、幅広い層の参加があったが、国際交流センターの会場では若年層の参加が少なかったため、子どもたちも含めてより幅広い層の市民が参加できるよう工夫が必要である。

(4) 効率・効果

事業の実施にあたっては市内の音楽大学の参加・協力等があり、会場料や企画制作等の面で費用負担の軽減がなされている。

A-2 東京交響楽団市内巡回公演

(1) 事業の目的

市がフランチャイズ(本拠地)オーケストラとして提携している東京交響楽団と協力して、アウトリーチ(出張公演)を実施することは、日ごろ音楽に接する機会の少ない市民に質の高い生の音楽を提供するとともに、「音楽のまち・かわさき」の周知を図る上でも有効と考えられる。当日配布のプログラムには、初心者向けの鑑賞方法の記載があるとよりわかりやすいが、楽器や曲目について適切な説明を入れながらの演奏で、市民ニーズも満たしており、十分に目的は達成されていると考えられる。

(2) 文化芸術性

市が東京交響楽団と協力して取組を実施することに独自性が認められ、音楽のまちづくりにとって大きな意義がある。また、演奏者にとっても、観客や会場などの演奏環境が異なる巡回公演を行うことにより、文化芸術性の幅を広げることにつながれると考えられる。

(3) 市民とのかかわり

施設での公演では利用者・関係者以外にも近隣住民等を含めた、また市民館での公演では若年層を含めた幅広い層の参加があれば、さらに意義深いものとなったと思われる。市民館での公演では市民ボランティアが運営に協力しており、市民との一体感が感じられた。また、各会場とも演奏者との距離が近く、適切な解説もあって親近感のあるコンサートとなっている。

(4) 効率・効果

実施施設や東京交響楽団はもとより、NPO法人や市民ボランティアなどと連携協働した当日の現場運営は評価できる。

A-3 坂本九の顕彰

(1) 事業の目的

前年度に引き続き写真展として実施しているが、音楽文化の振興として、また、顕彰事業の意義及び川崎市のイメージアップ向上の観点から、事業内容の工夫が必要である。

(2) 文化芸術性

開催期間中、麻生区役所会場では坂本九氏の歌を流していたものの、音楽の振興という要素があまり感じられず、独創性という点ではやや疑問が残る。今後、坂本九氏を知らない世代が増えていく中で、同氏の功績をどのように次の世代へつなげていくかが課題と思われる。

(3) 市民とのかかわり

区役所のロビーでの開催により、訪れる市民の誰もが鑑賞できる一方で、開催意図の説明が十分でなかったため、市民に理解が得られたか疑問である。

(4) 効率・効果

写真展開催中に同じロビーで区のコンサートが実施され、坂本九氏の曲が披露されるなど、他の取組との連携は評価できる。

総合評価	☐ A : 継続 ☒ B : 改善 ☐ C : 見直し
評価の理由等 音楽文化振興事業として、事業の目的については、ほぼ達成されていると考えられる。ただし、各取組をさらに効果的なものにするために、今後工夫の余地があると思われるため、「B:改善」とする。 音楽文化振興事業として、「国際音楽文化交流」と「東京交響楽団市内巡回公演」の個別の取組については、その目的(設定、達成度、手段の妥当性)もほぼ達成されている。文化芸術性もあり、参加者も満足している。また、「国際音楽文化交流」は市民団体の発表の場としても機能していた。近隣の市民への周知広報や若年層の参加促進に課題が残るものの、効果的な事業であるといつてよい。 「坂本九の顕彰」については、イメージ作りの一環として取組の趣旨は理解できるが、事業の達成度、手段の妥当性にはやや疑問が残る、市が行うイベントとして継続する場合は、企画及び実施方法の検討が必要であると考えられる。	
提 言 「国際音楽文化交流」については、音楽文化の振興を考える中で様々な広報により、今回はジャズのコンサートという面を強調すれば、国際交流だけでなく、ジャズファンも多く参加し、交流の幅も広がったのではないだろうか。また、市民音楽団体の参加者を公募することにより幅広い層からの参加も期待できると考えられる。 「東京交響楽団市内巡回公演」については、各施設での会場の特色に応じてプログラムの文字を大きくしたり、コンサートの鑑賞方法や注意事項を記載するなどの検討も必要と考えられる。また、歌詞カードの配布や馴染みの深い曲目の選定により、演奏に合わせて歌うなどの参加も可能である。開催時期の検討によっては、最適な状況で演奏者と鑑賞者が楽しめることができると考えられる。 「坂本九の顕彰」については、開催場所としての区役所ロビーは誰でも参加できる反面、多くの市民にとって区役所での目的が終われば帰ってしまうということも多く、開催方法を含めて検討の余地があると思われる。また、事業の実施にあたっては坂本九氏の功績を称え、活躍を市民に認識してもらうだけでなく、音楽との関連性がある企画等の検討も必要であり、坂本九氏を知らない世代が今後増えていくと予想されることから、次の世代につなげていけるような実施方法の検討が望まれる。	

B 市民文化活動支援事業

(1)事業の目的・概要

担当課	市民・こども局市民文化室	
振興計画上の位置づけ	1 文化振興	視点: ① ⑤ ⑧ ⑩ ⑪
	② 文化芸術を生かした個性豊かな地域社会の実現や市民相互の連帯を育み、市民の多様な文化芸術活動を育成推進し、また、市民や文化団体が主体的、創造的に文化芸術活動を行うことができるように支援し、市民の参加や団体等との協働による文化芸術の振興を図る。	
事業概要	市民の芸術活動を支援し、交流を深めるために「かわさき市美術展」「かわさき市民第九コンサート」「市民コンサート」の事業を実施する。	
目 的	市民文化振興事業を通して、多彩な文化芸術活動の振興を図る。 市民文化の育成及び交流を図る。	

取 組

番号	名 称	概 要 ・ 目的	
B-1	かわさき市美術展	概要	会場を「教育文化会館」と「アートガーデン」から「市民ミュージアム」に移し、新たに中高生部門を設け、平面(日本画・油彩・水彩・版画・グラフィック)、彫刻・立体造形、工芸、書、写真の6部門からなる市民の公募による美術展を実施した。 1月15日(金)～17日(日)応募・搬入(出展者309名) 2月5日(金)～27日(土)入賞・入選作品展(入場者7,829名)
		目的	市民の参加を促進し、機会や場所を提供することにより、市民の文化芸術への意識の向上を図る。
B-2	かわさき市民第九コンサート	概要	合唱団員を公募し、20回に及ぶ練習やオケ合わせを行い、市民オーケストラの演奏のもとで「第九」のコンサートを開催した。 12月13日(日)14時 ミューザ川崎シンフォニーホール (合唱団員293名、市民オーケストラ83名、入場者1690名)
		目的	公募による市民第九合唱団が、市民オーケストラとともに年末の風物詩「第九」を演奏することを通して市民文化の醸成と音楽のまちづくりを推進する。
B-3	市民コンサート	概要	市のフランチャイズ(本拠地)オーケストラである東京交響楽団室内管弦楽団によるコンサートを開催した。 12月15日(火)18時30分 川崎市総合福祉センター(エポックなかやほら)ホール (入場者627名)
		目的	市民にクラシックを身近に感じてもらうため、良質なクラシック音楽を廉価で聴くことのできる機会を提供し、市民の音楽への意識の向上を図る。

(2) 評価

取組への評価

B-1 かわさき市美術展

(1) 事業の目的

市民の創作活動の発表の場としての美術展の位置づけは妥当である。しかし、新たな才能の発掘の場として位置づけるためには、実施方法等の検討が必要であり、才能発掘の場は別に設けることも考えられる。

(2) 文化芸術性

中高生部門を創設して、公募展としての広がりを図ったことは評価できる。審査委員の講評が記載された図録の配布などで市民の文化芸術への意識向上を図ってはいるが、川崎市の実施する美術展として独創性や特徴に欠けることは否めない。入賞者のマスメディアへの広報や美術館の関与による美術展の地位の向上が望まれる。

(3) 市民とのかかわり

出展者の73%が60歳以上であり、リピーターも多い。若年層や新規参加者の取り込みが必須である。出展者と来館者の満足度は高いが、市民全体が満足しているかどうか疑問が残る。

(4) 効率・効果

市民の文化芸術活動の一つとして定着している。市内美術団体や学校との連携を進めることで、出展者や出展作品の増加を図ることができる。

B-2 かわさき市民第九コンサート

(1) 事業の目的

合唱団には定員を超える多数の市民からの参加応募があり、市民の文化芸術活動の醸成と「音楽のまち・かわさき」の推進という目的に合致している。

(2) 文化芸術性

オーケストラと合唱がともにアマチュアである市民を主体としていることが独創的であるといえる。合唱団の20回に及ぶ練習は功を奏しており、技量が向上している。

(3) 市民とのかかわり

公募による合唱団の組織、コンサートの運営への市民参加など、市民が主体となっており、練習の参加率も高い。参加者の中心は中高年層の女性であるため、若年層や男性の参加を促進することが課題である。

(4) 効率・効果

年末の風物詩として周知度は高い。市と連携し練習場の確保や募集などを行いながら、音楽のまちづくりの裾野の拡大に貢献している。

B-3 市民コンサート

(1) 事業の目的

音楽のまちとしてのイメージの定着とともに、プロの音楽を身近に楽しむという目的に合致している。

(2) 文化芸術性

指揮者のトークによる進行で選曲も良く、市民向けに構成されている。児童を対象に楽器紹介などの企画も考えるとよいのではないかと思われる。

(3) 市民とのかかわり

児童も含め市民の参加率は高く、会場整理等の運営にも市民ボランティアが参加している。内容的にも市民になじみやすいものとなっている。

(4) 効率・効果

音楽のまちづくりの推進のためには、同様のコンサートが市内で定期的実施されることが望まれる。また、今回の会場はロビーが狭く、休憩場所がなかったので、会場の選定や使用方法などの工夫が必要と考えられる。

総合評価	☐ A : 継続 ☒ B : 改善 ☐ C : 見直し
評価の理由等 市民の文化活動の支援を目的とする事業として、各々の取組は一定の目的を果たしているといえる。ただし、実施方法等を工夫する必要がある取組もあるため、「B:改善」とする。 音楽のプログラムに関しては、「音楽のまち・かわさき」の推進を図ることを目指しており、年末の「かわさき市民第九コンサート」についても、また、地域の身近な場所で開催している「市民コンサート」についても、市民参加率も高く、概ね目的を達成しており評価できる。ただし、より幅広い参加を促進するために工夫が必要である。 一方、現在の「かわさき市美術展」には、参加者の高齢化と固定化の問題があり、今回、中高生部門を設置したが、若年層や新規参加者の取り込みなどがまだ十分でなく、一層の工夫が求められる。目的においても、一部の市民の日ごろの芸術創造活動の発表の場としては機能しているものの、新たな芸術家の発掘・育成面が十分とはいえない。新たに会場となった美術館(市民ミュージアム)との連携により、川崎の独自性を含めて芸術における質的な面の向上についても検討する必要がある。	
提言 「かわさき市美術展」に関しては、学芸員の事業参画などによって会場である市民ミュージアムと美術展の関わりをより深めることにより、新しい才能の発掘・育成する場としても機能させることが可能と考えられる。また、市民の文化活動支援の舞台として、市民へのアトリエとしての開放やワークショップ(体験型講座)の開催などにより、市民ミュージアムを活用した取組も必要であると思われる。また、若年層への浸透に向けては、新たに漫画や映像などの分野についての取組も必要と思われる。 音楽プログラムに関しては、市民の音楽の関心をさらに高めるため、参加希望者が多い「かわさき市民第九コンサート」を年末だけでなく別の時期にも合唱できる機会を設けていくほか、海外で開催されているような、誰でも気楽に立ち寄ることができる公園などでの野外コンサートが開催されるとよいのではないかと。また、フランチャイズ(本拠地)オーケストラである東京交響楽団との連携によるプログラムは充実してきているため、クラシック以外にもジャズやポップスなどの多様な音楽のコンサートが開催されると、若年層を市の文化プログラムに結びつけることができると考えられる。 事業の周知については、最新の情報発信を実施していくことが必要である。特に「かわさき市美術展」は今後、若年層を視野に入れて携帯電話やPDA(個人情報端末)等を使った情報発信も模索するべきであると考えられる。	

平成21年度文化アセスメント実施結果報告書
2010(平成22)年8月
川崎市文化芸術振興会議

(事務局) 川崎市市民・こども局市民文化室
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地
電話 044-200-2029
FAX 044-200-3248